

# 棚田に吹く風

2014  
秋  
Autumn  
季刊

- 2 特集  
棚田は土石流や  
地這り跡地に拓かれた
- 5 フォトエッセイ  
光と風の中で
- 6 棚田・里山からのたより  
日本でっかい四ヶ村の棚田  
山形県最上郡大蔵村四ヶ村地区
- 8 ヨネちゃんの ニッポン全国  
棚田オーナー制度紹介  
棚田ライダー
- 9 棚田博士は今日も行く  
生石高原北斜面の棚田  
和歌山県紀美野町中田
- 12 会員のひろば
- 14 棚田ネットワークの  
かつどうノート  
新任理事のご挨拶
- 15 Project Report



特別寄稿

棚田は

土石流や

地<sup>じ</sup><sub>すべ</sub>り跡地に

拓かれた

棚田ネットワーク 中島峰広

地球温暖化に伴う異常気象や災害が世界各地で起こり、日本でも今は列島を揺るがす大災害が多くなっています。しかし、日本はもとも災害列島。昔から災害と共存してきた民族であることは棚田の成り立ちを見るとわかります。今号の特集は、広島市での土砂災害を現地取材した中島峰広の緊急特別寄稿をお送りします。



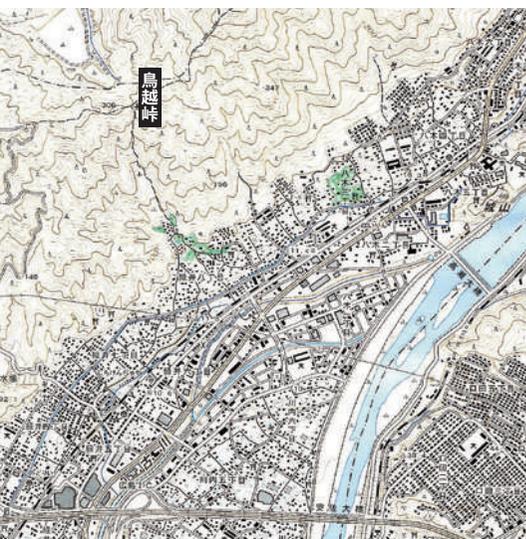
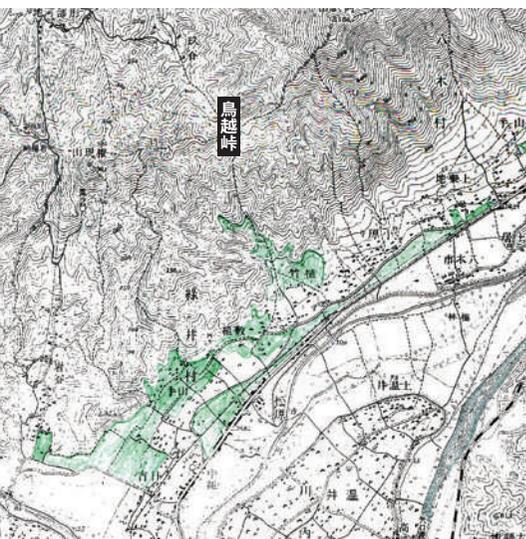
上：棚田に隣接する住宅／中：棚田の面影が残る／下：畑になった棚田（広島市安佐南区）

「梅雨明け十日」という言葉がある。南の太平洋高気圧が北の大陸からの気団を押し上げ日本全土を覆い梅雨明けになった後、十日間は晴天が続き炎暑の季節になることの譬えだ。しかし今夏は太平洋高気圧の勢力が弱く、南北の気団が本土上でせめぎ合い前線が停滞し長雨や集中豪雨となり、広島市の安佐南・北区に多数の死者をもたらす土石流災害を引き起こした。災禍を蒙った住民の方々には心よりお見舞い申し上げます。

ところで、巨礫と土砂で押し潰された家屋の様子を見て、気がついたことがある。あの被災地は過去にも同じように土石流が発生し、その跡地を棚田にしたところだったのではないか。

というのは、実際に棚田地域を歩くと、静岡県松崎町石部、愛知県新城市四谷千枚田、福岡県うきは市葛籠など多くの地域で土石流が発生したことを聞くからだ。また、最大の棚田卓越地である新潟県頸城地方は地入り常習地として知られており、そのほかの棚田地域でも地入り防止の水抜き井戸が存在することから、日本の棚田は谷地田型起源のものを除けば、土石流跡地や地入り地に拓かれたものが多いと考えているからである。

そこで、これまで発行されたすべての地図を保管している九段下の国土地理院関東地方測量部で、最も古い1925（大正14）年測図2万5千分の1地形図で宅地化以前の状況を見



上：広島市安佐南区八木（90年前）  
下：広島市安佐南区八木（現在）

てみると、避難所になった梅林小学校より西の旧緑井村の山麓部（山麓緩斜面）は水田、東の旧八木村は原野か畑地になっている。その違いは用水がえられたかどうかの違いによるものと考えられる。緑井村の水田は傾斜7分の1の斜面にあり、棚田だったことがわかる。このことから被災地の状況を見て想像するに、人力のみで土石流が運んできた礫で石垣を築き、土砂を集めて棚田にしたのではなからうか。重機のない時代にコアストーンと呼ばれる巨礫を他所へ運ぶ術はなかったであろう。棚田が農民労働の記念碑といわれる所以である。

このことから中国地方全体を考えると、日本の棚田卓越地の一つでもある吉備高原や

石見高原を含む中国山地は、主として古い地質時代の花崗岩からなっている。今回の災害から判るように、堅い花崗岩は熱の変化に弱く、風化しやすくマサ土の厚い層を形成する。マサ土は大量の雨で水を含むと地下水と一緒に巨礫をまじえて崩落し、土石流を引き起こす。その跡地の緩斜面に石積みみの棚田が築かれた。中国山地ではこのような土石流起源の棚田のほかに、同じ花崗岩が風化してできたマサ土から、たたらに用いる砂鉄を採取するために行った鉄穴流<sup>かんな</sup>しの跡地を利用した、石積みみの棚田がある。

一方、地切りは土石流同様にマスムーブメントの一つであるが、土石流が突発的瞬間にして

# 棚田は 土石流や 地這り跡地に 拓かれた



起こるのに対して、長期的に連続して起こる現象である。たとえば石川県輪島市白米千枚田では水抜き井戸ができるまで、毎年春の田作り作業は地這りで地割れした田面をかけやで叩き田面を修復することから始まった。地質構造からみると、第三紀層地域と秩父古生層・片岩地域の2つに大別される。地域的には東日本の新潟・富山・石川・長野県の第三紀層丘陵地域と、西日本の和歌山・徳島・愛媛・高知県などの破碎帯地域であり、これら諸県に地這りの70%以上が集中しているといわれる。日本第一の棚田卓越地である新潟県の頸城丘陵は、固結度の低い砂岩・泥岩・頁岩・凝結岩などからなり、風化して粘土になり易く、雪解けなどで大量の水が供給されると地這りが発生する。これに対し西日本の中央構造線に沿う破碎帯地域では、多数の断層により岩石が破碎されて粘土の生成に結びつき、多量の水を含むと地這りが起こる。このような地這りによってできた緩斜面に棚田が拓かれた。かくして東日本の第三紀層丘陵地域では土坡の棚田、西日本の破碎帯地域や中国地方では石積みの棚田が生まれたのである。

1: 新潟県上越市安塚区 / 2: 新潟県長岡市山古志 / 3・4: 宮崎県日之影町





## 畦のいろどり

千葉県鴨川市 大山千枚田

大山千枚田は今年も彼岸花を愛でる人たちで賑わいを見せた。夏の終わりの気候の変化のためか例年よりも早めの開花で、刈り入れ前の稲穂とのコラボレーションが楽しめた。

その名の通り毎年彼岸のころに、頃合いを見計らったかのように顔を出す多年草で、ヒガンバナ科、ヒガンバナ属。曼珠沙華とも呼ばれ、学名はリコリスで、ギリシャ神話の女神で海の精であるネレイドの一人に由来するという。

鱗茎(球根)に有毒成分を含むため、昔から墓や田んぼの畦に植えられ、ネズミやモグラなどの小動物から荒らされるのを防ぐ役目もあったようである。鱗茎はデンプンに富み、有毒成分のリコリンは水溶性で水にさらせば無害となり、第二次世界大戦中は救飢植物としても利用されたとの記述がある。

花言葉は「情熱」・「独立」・「再会」・「あきらめ」・「悲しき思い出」・「想うはあなたひとり」などがある。

大山千枚田の彼岸花は植栽されてから10年余りで、年々その彩り具合も趣きを感じさせられるようになって来た。千枚田の畦一面がいつの日か、真っ赤に彩られる秋の日を夢見ている。

フォト  
エッセイ  
光と風  
の中で  
写真・文  
水田 稔



水田 稔 みずた むのる

1947年千葉県鴨川市生まれ。報道写真家浜口タカン氏(二科会写真部審査員)に師事。大山千枚田をはじめ、千葉県指定重要無形民俗文化財の北風原羯鼓舞、吉保八幡神社流鏝馬を継続取材中。

2010年から、スイスの大自然とヨーロッパの世界遺産を撮影中。2013年から、江戸幕府直轄地「嶺岡牧」(鴨川市・南房総市)の撮影中。「四季の写真」(学研マーケティング)に大山千枚田の撮り方を特集。写真集「大山千枚田百選」(人類文化社)、写真展「ヴァリスの白き麗峰」(フレームマン・ギンザサロン)他、個展多数

- JPA・日本写真作家協会会員
- フォトグループ「MEW」代表
- 「水田稔写真塾」主宰

棚田・里山  
からの  
たより



## 日本でつかい四ヶ村の棚田

山形県最上郡大蔵村四ヶ村地区



上：四ヶ村の棚田・豊牧地区（秋）／下左：杵を押しして田植えの目印をつける（春）／下右：冬の棚田

### 四ヶ村の棚田とは

四ヶ村とは「豊牧」「滝の沢」「沼の台」「平林」の四集落を総称する呼び名で、その歴史は古く、鎌倉時代初期（1204年）の起源とされています。ここ四ヶ村地区は、大蔵村中心部から南へ10km程の所で、全国でも有数の豪雪地帯となっており、例年2mを超える積雪は、時には4mまで達することもあります。世帯数約100戸、人口約400人の山間の集落に、棚田は120mを超える規模に及びます。大蔵村は「日本で最も美しい村」連合という組織に加盟し、農山村の景観の保全や交流人口の拡大を図っていますが、四ヶ村の棚田が大切な資源となっています。

### ほたる火コンサート

四ヶ村の棚田は、平成11年に「日本の棚田百選」に認定されましたが、それを機に、農山村の美しい

景観の形成と地すべりの防止に重要な役割を果たしている棚田を守るうと、様々な活動を行ってきました。この地域は、国の直轄地すべり防止事業が長年行われてきた歴史があるほど弱い地盤の地層で、棚田を守ることが、命を守ることにつながっているのです。

その活動の一つとして、平成16年から「ほたる火」を、また平成18年からは「ほたる火」の中でコンサートをを行い、今年で9回目。今では四ヶ村の夏の風物詩としてすっかり定着しています。今年は「JRのDCキャンペーン」効果と相まって、全国各地から1500人もの観客を集め、素晴らしい天候の中、地元中学生や小学生も参加して、幻想的なオカリナコンサートを行うことが出来ました。

1200本のキャンドルが灯る夜空に響き渡るオカリナの音色は「まさに酔いしれるひと時」。ぜひ一度ご覧あれ。

## 棚田と肘折温泉

四ヶ村の棚田から車で15分ほど南に行くと、これもまた日本一と言いたい湯治場の雰囲気をも今に伝える肘折温泉があります。開湯は今から1200年前と言われ、かの有名な弘法大師の関わりも伝説として残されているほど歴史のある温泉で、湯の効能も素晴らしい、私たちの一番大切な宝です。この肘折温泉は冬の積雪量でも全国的に有名で、青森の酸ヶ湯温泉と日本一を争っています。

その肘折温泉、近年話題となっているのが「ひじおりの灯」と呼ばれるアートイベント。アートと言っても温泉の情緒が漂う絵灯籠。



ほたる火コンサートの情景。若い二人の心にも癒しの風景と音色がしみわたっていきます…

### ■ 棚田へのアクセス

【公共交通】 山形新幹線・新庄駅前より山形交通バスの「肘折温泉」行に乗車し日蔭停留所下車、徒歩約20分（目標物：ふるさと味来館）

【自動車】 尾花沢新庄道路（国道13号）の新庄ICより県道47号、国道458号線経由。大蔵村役場前より8.5kmを左折（四ヶ村の棚田の看板あり）、ふるさと味来館を目指す。新庄ICより21km約40分

### ■ お問い合わせ

山形県大蔵村役場 Tel.0233-75-2111



地元の東北芸術工科大学の学生とコラボレーションし、肘折温泉の賑わい創りを行っています。

四ヶ村の棚田「ほたる火」と肘折温泉の「ひじおりの灯」。村の大切な二つの地域で行われる、「火」と「灯」のコラボ。お互いに連携を図りながら、訪れる方々の心に温かい灯をともし催しを、これからも大切に続けてほしいと願っています。「ほたる火」コンサートを堪能した後、宿泊先の肘折温泉で「ひじおりの灯」がやさしく迎えてくれる。想像しただけで胸がときめくようです。

### 「棚田の大規模整備」を夢見て

最後に夢物語を…

全国の、棚田に関わりを持って

活動している皆さんの一番の願いは、棚田の景観の維持や棚田の保全をいつまでも続けることだと思います。しかし、現実はどうでしょう。

四ヶ村地区に限らず、多くの中山間地は人口の減少、高齢化に直面しています。この人口減少の傾向は、都市部以外では全国的なものとされていますが、ただでさえ大変な作業を強いられる棚田を抱える生活圏では深刻なものです。ボランティアも助っ人も、オーナー制度も、規模が小さい棚田の地区でなら活きる話ですが、1200年を超える規模になれば簡単な話ではありません。

そこで、夢を見るのです…

優雅な曲線を基調にして、最新

の設備を備えた大規模な棚田。そこで、棚田米やおいしい農産物を育てる若い世代の、楽しそうな姿。訪れる方々が見とれるような素晴らしい景観。先人が人の手だけで形作ってきた棚田の景観を、最新の技術で形作れないはずはないと私は思っています。懐かしい古里の情景と最新の技術の融合を夢見るのです。

まだ、イメージを絵にも表現できていませんが、ハイテク設備の夢の棚田を思い描いていきたいと考えています。

四ヶ村の棚田を愛する大蔵村の住民  
矢口智



第二回は、「毛原の棚田」を紹介するわ。

京都府福知山市大江町にある毛原の棚田は、途中に水車小屋や化粧地蔵もあって、歴史ある集落の景観がとっても風情的!



詳しくは京都府立大学の学生さんが作ったウェブサイト「心のふるさと 毛原へようこそ」を見てね。柔らかいイラストから毛原の温かい雰囲気が伝わるし、特に“毛原の人たち”の似顔絵は必見よ!  
<http://www12.ocn.ne.jp/~tanada/>



この毛原の棚田オーナー制度は『田舎暮らしの本』11月号で紹介されたのよ!



オーナー制度の参加資格は、自然を愛し、農村に親しみをもって共同作業ができる方。そして期間中に計15~20回の作業に来られる方なの。定員上限が10組だから農家の方とはもちろん、オーナー同士の交流も深められるわね。作業量が多いけど、収穫した米はすべてオーナーのもの。頑張り次第で収量を上げられるかもしれないわ!

田植え・稲刈り体験をしてみたい方には、農業体験ツアーがおすすめ。毛原の棚田米で作った地酒の「大鬼」など、嬉しい特典付きよ。

※棚田オーナー募集地域紹介サイト→ [棚田百貨堂](#) 検索



ヨネちゃんの



皆さん、ごきげんよう。棚田百貨堂※の聖女キヤラクター「ヨネ」といいます!このコーナーでは、楽しい棚田オーナー制度をたくさん紹介していきますので、これからよろしくお願ひしますわ。

## ニッポン全国 棚田オーナー制度紹介

第二回



神奈川県葉山町葉山の棚田にて

# 棚田ライダー

ひたすら棚田を求めて走り続ける…人呼んで「棚田ライダー」 今日どこかの棚田にそいつはやってくる!

棚田ライダー1号 竹内 ヒカル(東京都世田谷区)

「天国に一番近い島」というのが昔ありましたが、「東京から一番近い棚田」というのは「世田谷」でしょう。それは千葉鴨川の千枚田だと長らく思っていたのですが、三浦半島の葉山にも棚田があることを知りました。調べると第三京浜に乗ったら50キロと、鴨川棚田の半分距離。

早速、気持ちのいい秋晴れの日を選んでバイクを走らせました。横須賀インターからほど近く、たったの40分で到着。

ちっちゃい。かわいい。

この棚田を見て思いました。棚田の魅力って、盆栽とか坪庭とか日本独特の世界観というか小宇宙というか、ありますでしょ、これをですね、もういっかい実物大に戻したような感じなんですよね。大きなミニチュア。

葉山棚田は、いろんな形の田んぼの折り重なりがまますあって、その向こうの屋並みまでを含んで坪庭になっている。遠くの山々も借景となり、凝縮感のある棚田でした。話によると日暮れ時の家々の明かりが灯る時間もいらっひ。

採算が難しい棚田は何かインセンティブがないと消えがちですが、残されるべき風景と手間を惜しまずそれを守る人々の愛を感じました。

棚田は、ちよつと天国に近ところなのかも。あ、こそばゆいエンディングになってしまいました。汗。

# 棚田博士 は 今日も行く!

中島峰広の  
全国棚田行脚

## 生石高原北斜面の棚田

和歌山県紀美野町中田



なかしま みつひろ  
中島 峰広 (棚田博士)

早稲田大学名誉教授。学術博士。NPO  
法人棚田ネットワーク代表。全国棚田  
(千枚田)連絡協議会理事、棚田サミッ  
ト開催地選定委員会委員長。1933年  
宮崎県生まれ。早稲田大学教育学部地  
歴科卒。2004年まで早稲田大学教育  
学部教授。著書に『日本の棚田—保全へ  
の取組み』『百選の棚田を歩く』『続・百  
選の棚田を歩く』『棚田 その守り人』(以  
上、古今書院)。現在、百選外の棚田に  
ついての執筆準備のため全国行脚中。

紀美野町は県の北部、紀ノ川の  
支流貴志川が東西に流れ、南に長  
峰山脈や生石高原の山並みが連な  
り、町域の大部分が中山間地にあ  
る。中田は町の西部、標高60<sup>㍎</sup>の  
貴志川河岸から生石高原への登山  
道を200<sup>㍎</sup>ほど上った高原の北  
斜面に位置している。現場主義に  
徹する和歌山県有田振興局の職員  
林祐光さんの紹介で中田の棚田を  
知り、2013年11月上旬に続き  
2014年1月下旬に訪問、案内  
してもらった。

### 生石高原のすそにある棚田

東京を新幹線で発ち、新大阪で  
紀勢本線を走る特急くろしお号に  
乗り換え、海南で下車。林さんの  
車に同乗し、海南の市街地を抜け  
国道370号を東へ向かう。沖野々

を経て貴志川を渡り、川の右岸を  
走る。動木、下佐々などの大きな  
集落を通過、吉野の三叉路を右折  
して生石高原への登山道、県道  
180号に入る。小川橋から旧小  
川村の鎮守小川宮までは梅本川に  
沿う緩い傾斜の道。その途中の登  
山者のための駐車場には、出来た  
ばかりの上掛けの水車と農産物の  
直売所があった。設置の中心になっ  
て働いたのは、旧小川村の6集落  
で構成される「小川の郷づくり会」  
のメンバー。小川宮からは急傾斜  
の道に変わり、右に左に大きなカー  
ブを描きながら上ると、生石高原  
を背後にした中田の棚田が現れる。

### 棚田を樹木地や畑地に転換

棚田は、生石高原の標高200  
㍎330<sup>㍎</sup>の傾斜3分の1の急斜  
地に拓かれている。中田集会所手  
前、棚田の展望台になっている拡  
幅された道路部分から生石高原を  
正面にすると、谷を隔てて中田の  
ほぼ全域を見渡すことができる。  
右上から左下にかけて対角線状に  
農道が走り、農道の東の部分がさ  
らに浅い谷によって2分され、3  
つのブロックに分けられる。  
全体の面積は約6・5<sup>㍎</sup>、大縮尺  
1000分の1の地区平面図で見  
ると、西ブロックが水田22枚、ユズ、  
サンショなどの樹木地56枚、サツ  
マイモ、カボチャ、コンニャクな  
どを栽培する畑4枚、放棄地10枚。  
中央ブロックが水田26枚、樹木地



1：中央ブロックの見事な棚田／2：東ブロックは放棄地が目立つ／3：棚田は下が石積み、上が土坡。畦の中程にボール状の傾斜計が見える／4：大谷延由さん(左)と山本祐司さん(右)／5：大谷安秀さん

47枚、畑5枚、放棄地3枚。東ブロックが水田8枚、樹木地19枚、畑30枚、放棄地39枚。全体の枚数が269枚である。樹木地や畑地の利用はかなり粗放的であり、収穫されないユズが残されていた。かつては樹木、畑、放棄地の大部分が棚田だったといわれ、3ブロックとも50段から60段の段数が数えられるので、かなり壮大な棚田景観がみられたものと考えられる。

地区は中央構造線に沿う破砕帯にあるため、昔から地氾りに悩まされてきたところで、5〜10年毎に、表土下の粘土盤を手直しする床普請を行う必要があったそうだ。ことに東ブロックでの地氾りが顕著で、畑や放棄地が多くなっている。過疎・高齢化による手間不足から

床普請を行うことが出来なかった結果である。このため、2011年から6年間の工期で県営事業による地氾り防止の工事が実施されている。すでに、直径3・5メートル、深さ8メートルの集水井戸が6か所、ポール状の傾斜計と水位計が圃場の各所に設置されていた。

### 水田耕作するのは4軒

集落は、かつて40戸の戸数があり10戸が水田を耕作していたが、現在戸数は半減、水田を耕作する農家は4戸のみという。最初に訪ねた時、そのうちの2戸、大谷延由さんと山本祐司さんに会うことが出来た。2人は「小川の郷づくり会」のメンバーで、県が行う過疎地活性化事業としての耕作放棄地を利

用したさつまいも作りに参加していた。

大谷さんは69歳、奥さん65歳、母親91歳の3人家族。学校を終えるとともに就農、森林組合の現業班としても65歳まで働いた兼業農家。35歳頃から20年間、20人で生産組合をつくりシイタケの栽培も行った。現在は奥さんと2人で水田30ア、12枚を耕作、転作田25アでユズを栽培している。所有する機械類は耕耘機、歩行型2条田植機、バイスター、ハーベスターなど。2回目に訪ねた時、農作業を終えて軽トラに乗り帰宅する夫婦に出会った。冬の農閑期でも休むことなく、田直しや草刈りに励む棚田の守り人である。

山本さんは70歳、介護施設に勤め

る奥さんが65歳、母親96歳の3人家族。学校卒業後、54歳までJAに勤務、早期退職して現在は関西電力の関連会社に勤務しながら農業にも従事する兼業農家である。子供3人のうち長男と長女は神戸市、次男が町内に住んでいるが、農繁期でもほとんど顔をみせることはないという。祖父は有田川町金屋出身の商人で土地はなく、親の代に苦勞して農地を手に入れ、農家になったそうだ。それだけに、農地に対しては放棄を許さない特別の価値観を持っている。現在、所有する水田70アのうち、30ア、11枚の棚田でコメを作り、他は転作田として利用、ユズ20ア、サンショ20アを栽培している。中古の小型トラクター、歩行型2条田植機、バイスター、ハーベスターなどを用い、ほとんど一人で作業を行っている。収穫されるコメの大部分は自家飯米か子供たちや知人に送る縁故米、そのため手間はかかるが味がよいとされるハサ架けにして自然乾燥させているそうだ。

現在も水田を耕作する残りの2戸は大谷安秀さんと西浦玉純さん。再度訪ねた時、家の前で偶然に会う



上：収穫されなかったユズ／下：地這り防止のための集水井戸

た大谷さんは57歳、小学校の介助員をしている奥さん57歳と2人だけの世帯。娘2人はそれぞれ大阪市と和歌山市で所帯を持っている。農業高校卒業後、和歌山県の農業大学校に進学、卒業後井関農機に入社、勤務の傍ら農業にも従事する兼業農家になった。井関では長く町内や紀ノ川市、岩出市などで農機を販売する営業を行っていたが、その後堺工場で管理部門の仕事をするようになり、通勤に苦労するので和歌山市内に居住、中田には農作業のために通ってくるそうだ。水田70㍎を所有、そのうちの30㍎、7枚でコメを作り、転作田20㍎でユズを栽培。20㍎を放棄しているが、草刈りだけは行っている。機械類は井関農機の社員というプ

イドもあり新品のトラクター、乗用4条田植機、乗用4条刈コンバインを所有。作業は、会社勤務の合間をみて中田の実家に戻り、一人で行くことが多いという。もう一人、西浦さんには会うことが出来なかったが、皆さんの話によると70歳台の高齢者夫婦で20㍎前後の水田を耕作しているそうだ。

### 棚田の耕作を続ける方策は

夜、集会所で大谷延由さん、山本

さん、林さんと私、それに和歌山県海草振興局の伊藤隆治さんと県職OBの田伏啓治さんが加わり、今後の中田について語り合った。現在、中田で水田を耕作している4人には後継者はいない。そのうち、比較的若い大谷安秀さんを除けば

3人とも後期高齢者とよばれる世代。農地に対して特別の思い入れがある山本さんでさえ、これから10年農作業を続けることは困難だろうと仰しゃる。近隣の都市に住む子供たちが帰って来るだろうか、田植え・稲刈りの農繁期にさえ顔を見せない子供たちが帰ってくると思えない、という。

結局、中田のような地域で棚田の耕作を続けるには、外部から担い手を求めるしかないのではないか。そのためには担い手が魅力を感じるような施策が必要である。

これまでの中山間地域等直接支払は耕作放棄に歯止めをかけた画期的な施策であったが、このほかに日本版環境支払ともいえる多面的機能支払を加えても十分ではない。徳島県上勝町の前町長・笠松和氏氏の持論「現行の中山間地域等直接支払を10倍にせよ」とまではいわないが、せめて5倍にすれば担い手が現れるかもしれないという話が終わった。棚田地域の存続がまさに瀬戸際の状況にあることを痛感させられる訪問となった。

### 中田の棚田へのアクセス



【公共交通】 JR紀勢本線・海南駅から大十オレンジバスにて「登山口（野上中学校）」行きに乗車、約30分の終点で下車。更にそこからタクシーまたはコミュニティバスで中田集会所まで7km約10分。

【自動車】 阪和自動車道・海南東ICより国道370号を東へ進み、県道180号を右折し生石高原方向に進む。曲がりくねった坂道を上ると中田集会所に到着。海南東ICより15km約30分



「こんな活動をしています」「こんなことやっています」という皆さんの声を編集部までお寄せください! ご要望、感想やご質問でもOK!  
(会員の声800字まで、会員レポート400字まで。写真も添えて) トーシンハイム七〇四号「棚田に吹く風」会員のひろば」宛  
〒一六〇〇〇二三 東京都新宿区西新宿七ー八一ー一六  
メールでも受け付けています。 ⇩ hiroba@tanada.or.jp

## 生きものいっぱいの 谷津田の米づくり

千葉県千葉市  
桜井 健

私の所属している「ちば環境情報センター」(www.ceic.info)では千葉市内で、谷津田環境の保全活動を行っています。

「谷津田」という言葉を、千葉県北部、茨城県南部では当たり前のように使ってしまっているのですが、関東でも西側では、谷戸、谷戸田という言い方が一般的なようです。

谷の部分非常に長く入り込んだ、谷津・谷津田地形というのは、一度海没している下総台地に特有な地形のように思います。

どこまで行っても奥山は現れず、比高20~40mの台地と斜面林と谷津田が延々と繰り返す景観は、奥山の前山としての里山とは一味違った面白さがあります。

両側の平坦な台地と斜面林に囲まれた谷津田は、渇水期でも湧水が絶えず、水の心配はほとんどなくて良いのですが、細く入り組んだ谷津は、耕地整理が行われていないところも多く残っています。

私たちが活動している、千葉市緑区下大和田町の谷津田も、耕地整理・乾田化されておらず、排水路である土の水路との水位差がほとんどないので、稲刈りの時期にどれだけ水を抜いても、ひざ上まで泥にはまりながら稲刈りをするようになります。

農業機械は転倒してしまっただけで入れませんので、手植え手刈りでしか稲作ができません。地元の農家さんは、他にもっと効率の良い農地をお持ちです、機械が入らない泥深い湿田は耕作放棄さ

れるのも止むを得ない状況です。しかし、昔ながらの土水路と生き物たちが自由に行き来できる田んぼは、驚くほど生きものが豊富です。



米づくり講座「苗代づくり」

一年耕作放棄してしまつたら、あつと言う間に背丈3メートルほどのヨシ原になってしまいますので、開かれた水面を維持することは大変なのですが、目の前のメダカやカエル、トンボたち、それらを餌とする鳥たちの姿を見ていると、何とかこの環境を残して行きたいと思い、耕作放棄された田んぼを借り受け、仲間たちと米づくりをしています。遠い場所ではなく、東京への通勤圏でもある政令指定都市の千葉市域内に、生きもの豊富な里山環境を残すことに意味を見出しています。

千葉市内の小学校に、教育委員会を通じて谷津田での米づくりへの参加を呼びかけたところ、ベイエリアの美浜区のマンションにお住まいの方からの参加申し込みが非常に多かったです。人工的に計画された都市環境にお住まいの方は、やはり土に触れる機会を渴望しています。

今年8月には、一般社団法人関東地域づくり協会と公益財団法人日本生態系協会が定める「関東・水と緑のネットワーク拠点・百選」\*にも選出され、生態系保全の活動が評価されました。都市の身近にも豊かな里山自然があることを、多くの人に知っていただきたいと思っています。

\*関東・水と緑のネットワーク拠点・百選  
<http://www.ecosys.or.jp/100select/index.html>



## 会員さんの Best Shot!

### 会員のみなさんの ベストショット募集!!



みなさんが撮影した棚田や作業風景の写真など、ベストショットをコメント(70文字程度)を添えて編集部まで送ってください。毎号、紹介させていただきます! 送り先は下記。

〒160-0023  
東京都新宿区西新宿7-18-16  
トーシンハイム704号  
「棚田に吹く風 ベストショット」宛  
メールでも受け付けています  
⇨ [hiroba@tanada.or.jp](mailto:hiroba@tanada.or.jp)



### 天空の四谷千枚田

埼玉県深谷市 岡田 洋民

運転中突然現れた四谷の千枚田、思わずマチュピチュを連想しました

坂折棚田応援団

千葉県千葉市 斉藤 滋

棚田の美しい風景を守るためには、地元農業者と都市生活者の強い連携が必要となります。たくさん都市生活者に棚田ファンになっていただき、環境保全費用を上乗せした良質の棚田米を積極的に購入。この保全費用を、稲作専門技術を習得した近隣の都市生活者で組織する援農団の活動費に転用するシステムが必要です。もちろん、棚田の地元農業者は安全で美味しい米づくりに積極的に取り組むことが求められます。

NPO法人恵那市坂折棚田保存会と旅行会社が連携して棚田の保全価値を中日新聞でPRしました。同一紙面で都市の方々に棚田にお連れする棚田ウォークツアーを募集。熟年世代の方がツアーに多数参加され、坂折棚田のふるさと景観に魅入りました。特に棚田案内人さんの、石積み技術、治水管理の知恵のていねいな説明が、ウォークの楽しみを倍増しました。

また、棚田保全ヘルパーの育成を目的とした「坂折棚田とごっこ応援団」も同時に中日新聞で募集。20代女性から60代ご夫婦まで各世代バランス良く7名が応募され、第1回研修会では中島峰広先生が「棚田の保全価値」、相田明先生が「棚田の自然と生き物たち」の講義を和氣あいあいとされました。稲刈り実習も、手刈り、機械刈り両方を体験。技術習得まで路は長いことを一同実感。石垣の草取りは、成果が歴然と現れることに感動しました。

次回研修会は11月1〜2日開催。成川米穀の成川社長も講師として参加されます。

上：中日新聞の掲載誌面  
下：第1回研修会の様子



編集部イチオシ! BOOK & MOVIE



©フジテレビ/共同テレビ

キャスト：生田斗真  
真木よう子 他  
脚本：橋部敦子  
音楽：海田庄吾  
制作：フジテレビ/  
共同テレビ

全10話

- Blu-ray BOX(4枚組)  
¥24,675(税込)
- DVD-BOX(6枚組)  
¥19,950(税込)

遅咲きのヒマワリ〜ボクの人生、リニューアル〜

旧暦を取り入れて、季節の移ろいを感じ、旬の食べ物を味わいながら、心も体も豊かに暮らすための手引書。「旧暦って言うけど、そもそも今の暦と何が違うの?」というような旧暦の基本知識から、季節ごとの行事や植物、食べ物、遊びなどをかわいらしいイラストとともに紹介。月と太陽の運行を取り入れた暦に「二十四節気」と美しい季節感を表す「七十二候」を加えた旧暦。四季のある日本という国に生まれた幸せを感じられる一冊でもあります。棚田ネットワークの『旧暦棚田ごよみ』と合わせてどうぞ。



松村 賢治 (著)  
¥1,404  
PHP研究所  
2013年12月

旧暦で今をたのしむ「暮らし歳時記」

東京の大学を卒業したものの就職先での派遣切り、就職難に直面した主人公は、半ば逃げるように偶然ネットで募集告知を見た高知県・四万十市の「地域おこし協力隊」に応募。しかし赴任後まもなくシビアな現実を思い知らされるのだった…。

近年、棚田地域でもよく耳にするようになってきた、地域おこし協力隊をテーマとして、若者たちの奮闘を描いた連続ドラマ。舞台となる、最後の清流と呼ばれる高知県・四万十川の美しい映像は必見です。

東北初、山形県上山市で  
第20回棚田サミット

2014年10月23日～24日 報告 高野 光世

棚田サミット参加も20回目。初日の基調講演は民俗研究家の結城登美雄さん。日本の食を支えている農家は人口割合にすればわずか2%だという話が衝撃でした。現地見学会は小倉の棚田コースへ。整備された見事な棚田や水路を散策し、玉こんにやくやお茶などの温かいもてなしを受けました。

翌日の「棚田保存会意見交換会」では、各地の保存会代表が4つのグループに分かれてワークショップ。意欲的な企画でしたが、時間が限られじっくり討論できなかったのが残念です。次回に期待します。



丸の内さえずり館ネイチャーセミナー  
「旧暦のリズムで棚田を味わう」

2014年11月7日 報告 高桑 智雄

「旧暦棚田ごよみ」の発売を記念してイベントを開催しました。残念ながら2014年をもって閉館が決まった「丸の内・さえずり館」での最後のイベントです。写真家・青柳健二さんによる二十四節気の解説にあわせた美しい棚田の紹介と今年から体験田に決まった千葉県鴨川市川代棚田の新米コシヒカリを25名の参加者が楽しみました。10年近く活用させていただいた「さえずり館」、長い間ありがとうございました！



棚田ネットワークの  
かつどうノート



このコーナーでは、棚田ネットワークのスタッフの活動や事務局のことなどを幅広くお伝えしていきます。

あくわ こうき  
阿久澤 剛樹



棚田及び中山間地農業と地域おこしに関心を持っています。新潟を中心に棚田地域のNPO活動に参加しながら、仕事である国際観光投資とホテル経営の経験を活かしたプロボノとして、棚田の普遍的な美しさと文化的価値を世界に発信したいと思っています。よろしくお願ひします。

たかやま よしゆき  
高山 承之



棚田ネットに出会って15年。何時も「口を出すばかり」というわけにもいかず、こういうことになりました。無精者で器用貧乏を自認しています。  
鴨川・大山千枚田でオーナー活動を継続中。会社勤めで、定年まで8年を切りました。この7月から茨城・水戸に単身赴任中です。

すぎやま ゆきお  
杉山 行男



4月の総会で初めて理事に選任いただきました杉山です。農地のほ場整備などの農業土木の仕事をしてきましたが、坂折棚田の整備で中島先生にご指導いただいたご縁でお世話になっています。当ネットワークは、棚田を通じた人のつながりが活動を支えています。  
会員の皆様のしたいことを実現することにより、活動が活性化し棚田地域が元気になるよう微力ながら努力したいと思っています。よろしくお願ひします。

棚田ネットワーク

新任理事のご挨拶

## 新潟県佐渡市

### 佐渡ボランティアツアー

#### 佐渡ボランティアツアー2014 今年も無事終了！



海の日佐渡ツアー、初日は岩首談義所で地元の方を交えた交流会。テーマは「棚田サミットに向けて」、熱の入った討論になりました。

二日目は月布施地区の棚田で朝8時から昼までハードなビオトープの手入れ、午後からは泥んこバレー大会見学後再び公民館に戻り、月布施交流会を行いました。

三日目は初めての試みとして地元ツアーガイドによる『あるかんか佐渡<野浦編>』3.3kmの探訪コースに参加、野浦地区の名所旧跡や棚田のウォッチングを満喫しました。

(上久保 郁夫)

## 岐阜県恵那市

### 棚田ビオトープ プロジェクト

#### こどもビオトープ観察会と稲刈り



先日出席したシンポジウムで水生生物の専門家が「最近、子供が水辺で昆虫採集をしているとすぐに危険だからと通報されてしまう」と言っていました。子供も昆虫採集ができる場所があります。「夏休み・こどもビオトープ観察会」が8月2日(土)10:00から11:30まで開催されました。参加者は合計6名、うち子供は3名(すべて女の子!)。今年は趣向を変えて、カエルを捕まえた人にはカエルグッズをプレゼント、としました。子供は私が思っていたより必死。捕まえられるカエルも必死。子供は100円ショップで購入したマグカップなどをもらい大喜びでした。

さて、今年の稲刈りは9月23日(火祝)に開催、参加者は4名(うち国際園芸アカデミー学生2名)でしたが、作業途中で突然テレビの取材が入りました。お笑い芸人「ずん」の飯尾和樹さんが坂折棚田を訪ね歩きました。その模様、東海テレビの『スイッチ!』『岐阜・恵那市で秋を満喫旅!』で10月3日(金)9:50から放映されました。(相田 明)

## 静岡県松崎町

### 昔ながらの米づくりプロジェクト

#### 草刈り・草取り～稲刈り そして脱穀まで



8月下旬に2回目の草刈り、草取り作業を終え、10月4日、5日に今年も無事収穫の時をむかえたかに思えました。総勢26名の参加をいただいたのですが、台風18号の接近により、ハザ掛けが中止になり稲刈りのみの作業という緊急事態。その後、保存会の方々にハザ掛けをしていただいたのですが、今度は台風19号の接近により、急遽脱穀作業になるという

てんやわんやな年になりました。スタッフ2名が脱穀に駆けつけ無事籾を収穫、もう一度天日乾燥させる作業が残っていますが、今年もなんとか新米ができ、11月9日に「新米を食べる会」を開催します!

(高桑 智雄)

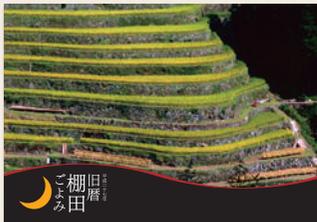
今年も作りました!

# 使いづらい、だけど美しい! 始めてみよう『旧暦生活』

月の満ち欠けでひと月を知り、太陽の動きで季節の移り変わりを感じていた「旧暦」での暮らし。旧暦棚田ごよみは、四季折々の美しい棚田の風景とともに、暦で「季節感」を味わうことのできる旧暦カレンダーです。

平成27年版  
『旧暦棚田ごよみ』  
写真:青柳健二  
サイズ:A4(開くとタテA3サイズ)

¥1,200(税込)  
贈答用にどうぞ!  
5部セット ¥5,000(税込)



四季折々の棚田風景

二十四節気七十二候雑節を表示

新暦表示もあり!

月の満ち欠けイラスト入り!



ふろく

ミニブック  
『旧暦棚田読本』  
付いてます!

※このカレンダーは、旧暦の元日(平成27年は2月19日)から始まります。

ご購入は



NPO法人  
棚田ネットワーク

TEL/FAX:03-5386-4001  
E-mail: koyomi@tanada.or.jp

●Webサイトからのご注文もできます。  
[www.tanada.or.jp/tanada\\_goyomi/](http://www.tanada.or.jp/tanada_goyomi/)  
※上記QRコードからも注文サイトへ行けます。

イベント情報! 11月7日(金) 18:30~ 写真家 青柳健二さんが、棚田と旧暦のお話をしてくれます! 場所:丸の内さえずり館(詳しくは [www.m-neture.info](http://www.m-neture.info))



## わたしたちと『棚田の応援団』、やりませんか!

棚田ネットワークは「棚田の保全に協力したい!」という会員によって自主的に運営されているNPOです。消えゆく美しい“棚田”をどのように保全していくことができるのでしょうか?一緒に考えませんか?ぜひ、私たちと棚田の応援団になりましょう!

会員になると!

会報誌「棚田に吹く風」(年4回)やイベント案内お届けの他、棚田ネットワークが主催する各プロジェクト(イベント)への参加や、スタッフとしての活動もできます。

年会費

- 個人会員
  - 維持会員 1口1万円(1口以上)
  - 一般会員 4,000円
  - 応援会員 3,000円
  - 学生会員 2,000円

法人会員を募集しています!

私たちの活動にご支援・ご協力をいただける、企業、団体、事業主さまを募集しています。詳細はお問い合わせください。

年会費

- 法人会員 1口3万円(1口以上)

この上のスペース(ページ上1/2サイズ)は法人会員さまのPRスペースとして広告や広報にご利用いただけます。(詳細はお問い合わせください)

もし失われゆく棚田が地球の未来の縮図だとしたら、私たちはここで人としての新しい生き方を学んでいるのかもしれない。

編集部から  
20年ぶりで地方赴任から帰ってきた美兄が、棚田に興味を持ち、会の米づくりイベントに参加している。性格も生き方も趣味趣向も全く違い、数年に1度しか顔を合わせない兄弟が、月に1度同じ棚田で一緒に汗を流している。そもそも棚田では、普段の生活では絶対に出会うことのないジャンルや立場の違う人達と出会う。棚田の多面的機能が、あらゆる方向から人々を引きつけているのだろう。そして、「棚田を守りたい」という1つの目的のために、それぞれの立場を超えて混じり合っていく。

## ホームページのぞきを見て!

棚田ネットのWebサイト  
イベント情報、ブログ等  
随時更新中!!



<http://www.tanada.or.jp>



2014年 秋号 Vol.94

発行 NPO法人  
棚田ネットワーク

〒160-0023  
東京都新宿区西新宿 7-18-16 トーシンハイム 704 号  
Tel / Fax 03-5386-4001  
e-mail: info@tanada.or.jp URL: www.tanada.or.jp  
郵便振替口座: 00100-7-151565